



新元号慶祝行事を開催しました

弘前さくらまつり会期中の5月1日に元号が「令和」となることから、この「令和」に込められた「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味にちなみ、郷土芸能や伝統文化で祝う「新元号慶祝行事」を弘前公園で開催しました。

津軽三味線や獅子舞などの郷土芸能や、弘前高校、弘前実業高校の書道部による書道パフォーマンス、弘前大学のサークルによるアカペラなどが披露され、多くの市民や観光客が新しい時代の幕開けを祝いました。

■問い合わせ先 企画課（☎ 40-7021）



「令和」の記念にふたりの人生の門出を

5月1日は、改元の記念日に合わせて婚姻届を提出したり、弘前公園で記念撮影したりする夫婦が多数いました。これからの未来へ手を取り合って歩んでいく二人に、周囲の人が温かく言葉を掛ける場面もありました。

今年2月に結婚し、妻の故郷である青森県でぜひ撮影したいと弘前を訪れました。満開の桜に感動！新しい時代も夫婦二人三脚で明るく過ごしていきたいです。



佐藤拓也さん、怜佳さん夫妻（東京都在住）

満開の桜と写真が撮れて、本当に嬉しいです。令和の最初の日を弘前の桜とともに過ごすことができ、一生忘れられない思い出になりました。

弘前市誕生130周年特別企画

懐かしの風景

—あの場所はいま—



▲大正期

明治27（1894）年に落成の青森県尋常中学校。新たな校舎建設に伴い本館の一部は移築保存され、現在も板張り壁にえんじ色の窓枠、玄関の漆喰（しっくい）など、鮮やかなコントラストを残しています。



▲現在

弘前高校校舎へのアプローチ。かつては正面に見えていた校舎は、昭和33（1958）年に新校舎建築のために現在地へ曳屋され、以後「鏡ヶ丘記念館」として親しまれています。

地域おこし協力隊の活動報告 File.3

地域活性化のために日々活動している「地域おこし協力隊」の隊員の活動を毎月紹介します。

■問い合わせ先 企画課（☎ 40-0632）

私は20歳で上京し、生活雑貨メーカー勤務、企画、販促アドバイザーなどを経験しました。それらのキャリアを生かして弘前の魅力を発信したいと思い、弘前にUターンしました。

岩木山が見える暮らしはなんと心地よく、長く離れていても津軽弁はすらすらと話せる。やはり私は根っからの津軽人だなと感じています。

協力隊の活動は、伝統工芸などの魅力発信や販路拡大をテーマにしています。全国的な人気になっているこぎん刺しを観光にも生かしたいと考え、首都圏の人を対象にこぎんの歴史や文化に触れる2泊3日のツアーを企画したところ、大好評でした。

愛宕（あたご）地区の竹細工継承も活動のひとつです。時代とともにプラスチックに替わっていったりんごの手かご。昨今



私が平成29年に活動を開始して約1年半。これまでを振り返りながら、地域づくりへの思いをつづります。

岩木地区地域おこし協力隊
佐々木直美さん
（弘前市出身）



の民芸人気で需要は高いものの、職人が少なく供給が追いついていません。岩木山の自然資源を生かし、技を継承し、竹かごづくりが仕事となり、地域コミュニティにもなる、そんな仕組み作りを目指しています。

また、岩木山の標高1,625mにちなみ、令和元年6月25日を中心に開催するイベント「岩木山1625大作戦」は、岩木地区の地域おこし協力隊の3人が一緒に企画を進めてきました（本号最終ページ参照）。その中で、全国から募集した10cm四方のこぎん刺しをつなぎ、大きなタペストリーを作るプロジェクトを実施します。絵画のような岩木山が眺められる岩木庁舎2階ラウンジで展示しますので、皆さんぜひ見に来てください。

